



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

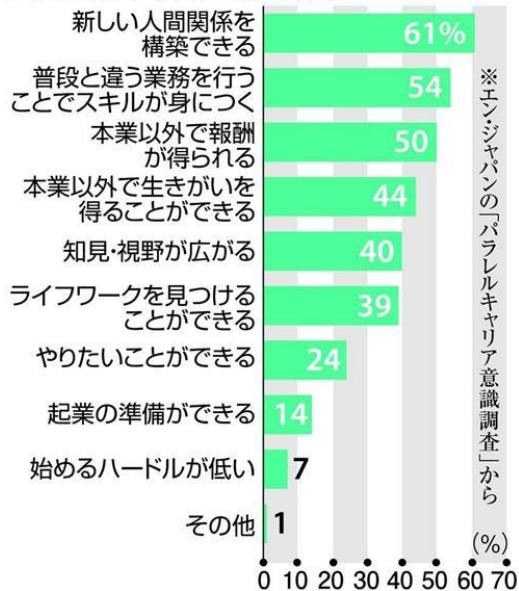
知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4172 号 2018.1.28 発行

ミドル層も注目「パラレルキャリア」 これであなたもできる上司に&退職者の居場所を

産経新聞 2018年1月27日

パラレルキャリアのメリット



複数の仕事を掛け持ちする“複業”をもったり、ボランティアなどの活動に携わったりする「パラレルキャリア」。自分らしいキャリアやライフスタイルを実現しようとする若者を中心に浸透しつつあるが、ミドル層でも関心が高まっている。社外活動で培った能力や経験は、部下やチーム、プロジェクトのマネジメントにも生きる

多様性学んでチームカアアップ

「マイナースポーツを盛り上げていくために年齢も職種も幅広い人たちを巻き込んでいった経験は、本業でチームのパフォーマンスを上げることにも生きている」

こう話すのは大手電機メーカー、富士通（本社・東京都港区）で法人向けにソフトウェアの企画や拡



販に携わる紀室（きむろ）英輔さん（39）。

年上の部下6人を持つマネジャーとして働く傍ら、社外活動では日本フットバッグ協会の監事を務める。

フットバッグとは、直径5センチほどのお手玉のようなバッグ（ボール）を、足で蹴ったり甲に載せたりして行うスポーツ。ネットを挟んで蹴り合ったり、音楽に合わせて踊るように足技を繰り出したり、競技にはバリエーションがある。

米国発の競技で、競技人口は世界に600万人とされるが、日本では知らない人がほとんど。このフットバッグを日本で普及させようと、2004年に協会が設立された。紀室さんは設立当初からのメンバーだ。

競技人口の少ない中で盛り上げていくには、仲間が一丸となって取り組む必要があった。小学生からシニアまで年齢層も幅広く、職業もばらばらのプレーヤーたちを巻き込んでいった。

「多様性を認めるということフットバッグを通して学んだ」と紀室さん。

仕事の進捗（しんちやく）が遅れがちな部下がいても、チーム全体として成果を挙げるにはどうしたらいいかという考え方が、本業でもできるようになったという。

また、海外のプレーヤーとの交流が多い。その経験は、本業で国外の関連会社とやりとりする上で生きている。

楽しそうな上司を部下も支持

こうした紀室さんのような上司を、人材サービス会社のリクルートマネジメントソリューションズ（本社・東京都品川区）は「ボス充」と名付け、今年のトレンドになると予測している。プライベートや社外活動が充実しているボス（上司）は、会社や社会に好影響を与え、部下やチームから信頼されるというのだ。

たとえば紀室さんについて部下の1人は、「人との距離感が絶妙。ときには上司、ときには同僚、ときにはサポーターと、その時々で最適なコミュニケーション方法で、耳を傾けてもらえる」と評している。



リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所の古野庸一所長は、「パラレルキャリアを大事にしている若い人が増えている。彼らは上司にも、専門性よりも人としての幅があることを求める傾向があるようだ」と指摘する。「楽しくなさそうな上司のもとでは、部下も楽しくない」と感じているのだという。

また、所属企業など自分の本来の居場所以外で学びを得る「越境学習」の効果に着目し、社員が副業やプロボノ（仕事で培ったスキルや経験を生かして社会貢献活動をする）といった社外活動に携わることを推奨する企業も増えている。

大手電機メーカー、パナソニック（本社・大阪府門真市）はCSR（社会貢献）活動の一環で、社員をプロボノとしてNPO（特定非営利活動法人）の支援活動に参加させるプログラムを実施している。

このプログラムに2回参加した藤田直子さん（48）もリクルートが挙げるボス充の1人。社内での募集に手を挙げ、アジアの貧困問題に取り組むNPOと公益社団法人を支援するプロボノチームに加わった。

本業では、パナソニックの商材を海外で販売するしくみの構築に携わる。プロジェクトマネジメントの手法や、資料づくりのノウハウといった普段の業務で培ってきたスキルを生かして、支援先のNPOが抱える課題を可視化したり、組織の魅力を伝えるパンフレットやプレゼン資料を作成したりした。

『ありがとう』といわれたり、社外で評価されたりすることは、（本業への）自信につながった」と藤田さん。

社外の多種多様な人とコミュニケーションする中で、「こちらの言い分を押しつけるのではなく、いろいろな立場の人の主張を聞いて、落としどころをさぐる」やり方も学んだ。本業で、日本側の製造部門と海外の販売部門双方をとりまとめる際にこの経験が生かされた。

藤田さんは、15歳の女の子と7歳の男の子を育てる2児の母でもある。

「働いている自分、子育てをしている自分、バランスをとって行く中で、もう1つ自分の軸が欲しいと思った」

藤田さんは社外活動を始めたきっかけをこう振り返る。社外活動は子供にも良い影響があったと感じているという。

「子供たちは寂しくもあつただろうが、応援してくれた。女性が働きながら、いろいろなことに取り組んでいるところを見て、なにか感じてくれていたらいいなと思う」

第3の場所は退職後の居場所にも

団体を運営したり、国際的な支援活動に携わったりといったものばかりが、ボス充につながる社外活動ではない。少年野球のコーチや、子供の学校でのPTAといった子育てまわりの活動も、本業に生きる立派な社会活動だ。

「大人よりよほどままならない子供を相手にすることは、人材としてひと皮むけさせる経験」（古野所長）。どうすれば学びに生かすことができるか捉え直し、どうせやるなら何かを身に付けようと楽しんでやるのがコツだという。

社外で付き合う人が増え、家庭と職場以外に所属する「サードプレイス」ができれば、

退職後の居場所確保につながる期待もある。

人材サービス会社のエン・ジャパン（本社・東京都新宿区）が、2016年に転職支援サイト「ミドルの転職」のユーザー（35歳以上）を対象に調査したところ、58%がパラレルキャリアを実践したいと回答した。すでに実践している人は、パラレルキャリアのメリットとして、「新しい人間関係を構築できる」（61%）、「普段と違う業務を行うことでスキルが身につく」（54%）などを挙げている。（文化部 松田麻希）

生活保護者は後発薬 厚労省、医療費抑制へ方針 中日新聞 2018年1月27日

厚生労働省は二十七日、生活保護受給者について、医師が問題ないと判断すれば、先発医薬品より安い後発医薬品（ジェネリック）を原則使用することを生活保護法に明記する方針を固めた。受給者の高齢化に伴い増え続ける医療費（医療扶助）の抑制が狙い。今国会に同法改正案を提出、二〇一八年十月の施行を目指す。

医療扶助は全額が公費負担。一五年度の場合、生活保護費約三兆七千億円のうち約一兆八千億円と最も多い。厚労省は抑制に向け、受給者の後発薬の使用割合を一八年度中に80%以上にすることを設定している。

現行法は、受給者の後発薬使用を「可能な限り促す」としており、あくまで努力義務の扱い。このため、薬局などで後発薬を勧めているが、希望者には先発薬を調剤。後発薬の使用割合は一六年で69・3%にとどまる。

そこで同法改正案では「原則として後発医薬品による」と、より踏み込んだ表現とし、受給者の意向にかかわらず後発薬の提供を徹底する。法案が成立すれば、同省は自治体の福祉事務所や薬局に詳細な対応を通知する方針だが、受給者の反発を招く可能性もある。

後発薬の使用は薬局で促したり、福祉事務所のケースワーカーが指導したりしている。ただ、医師が後発薬の使用を認めた場合でも先発薬を調剤する事例があり、財務省の資料によると、その理由の67・2%が受給者本人の希望だった。

障害者議員 「合理的配慮」のモデル案 事例集作成へ 毎日新聞 2018年1月27日

「障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク」（代表＝伝田ひろみ・さいたま市議）は27日、さいたま市内で総会を開き、障害のある議員に対する「合理的配慮」のあり方を示すモデル案を取りまとめた。メンバーの議員の経験を基に、事例集を作成することも確認した。

4月をめどに全国市議会議長会や全国町村会議長会にモデル案と事例集を送付し、各地の議会で反映されるよう働きかける。モデル案は議場内の段差解消や介助者の同席などに理解を求めているほか、聴覚、視覚障害者への情報保障について当事者の希望を十分尊重するよう訴えている。

車椅子で活動する伝田代表は総会后、「市民の声を代弁する議会は、多様な議員で構成される方が良い。そのための環境整備が必要だ」と語った。【山田麻未】

乳幼児突然死、アラームで防げる？...購入補助、学会が反対意見

読売新聞 2018年1月27日

「うつぶせ寝」などによる乳幼児の事故防止対策として、厚生労働省が計画している警告装置の購入費補助に対し、小児科医らの学会が反対の意見書を提出したことがわかった。米食品医薬品局（FDA）は予防効果はないと警告しており、専門家は「効果の検証もなく公的補助をするのは問題」としている。

厚労省が導入を予定しているのは、乳幼児突然死などの事故防

◆無呼吸アラームのイメージ



止対策製品の購入を国と自治体が保育所などに補助する事業。費用として、今年度補正予算案に約3億円を計上した。

補助対象は、乳幼児の呼吸や心肺の動きを監視して、異常があれば音やランプで警告する「無呼吸アラーム」など。ただ、反対している日本SIDS（乳幼児突然死症候群）・乳幼児突然死予防医学会（市川光太郎理事長）によると、無呼吸アラームの突然死防止効果は確認されていない。

同医学会理事の中川聡・国立成育医療研究センター集中治療科医長は「補助により、アラームを導入しないと安全対策が不十分と保護者が誤解したり、保育士が減らされたりする懸念があり、不適切だ」と指摘する。

厚労省保育課は「製品はあくまで補助的な役割。保育士による安全確認が手薄にならないよう注意喚起を徹底したい」としている。

「悶絶」TV罰ゲームの缶詰、足のにおいに行列のナゼ 「におい展」開催中

産経新聞 2018年1月27日

テレビ番組の罰ゲームでも使われるシュールストレミングの缶詰。激臭レベルは最大の5。ネット上では「ラスボス」との声も。悶絶します＝19日、東京都豊島区（松尾祐紀撮影）

スメルハラスメント。体臭や口臭などで周囲に不快感を与えること。通称「スメハラ」。現代社会に生きるわれわれにとって避けて通れぬ敏感な問題だ。そんなこのご時世、「におい展」なるイベントが池袋パルコ（東京都豊島区）で開かれている。「悶絶（もんぜつ）」から「美臭」まで50種類のにおいが体験できるという。週末は2時間待ちになるというが、なぜ行列に並んでまで臭いにお



いを嗅ぎに来るのか。（WEB編集チーム 松尾祐紀）



会場内に入ると透明な瓶がずらり。中には綿が敷き詰められてお



り、ふたを開けるとにおいが嗅げるといふ趣向だ。荘厳なクラシック曲が流れる会場は若い女性やカップルでにぎわっている。

メインは「世界一臭い缶詰」といわれるスウェーデンのシュールストレミング。発酵した塩漬けのニシンの缶詰だ。公式サイトには「テレビの罰ゲームでもおなじみ」とある。

ほかにも、「あまりの臭さに電車も止まった臭豆腐」「加齢臭」「足のにおい」などなど。...全然テンションが上がらない。

しかもこれら激臭の展示はそれぞれブースで区切られ、外に漏れないようになっている。その演出が想像をさらにかき立てる。どんだけにおうんだ。1年ほど前に名古屋で開催した際は嘔吐（おうと）してしまった人もいたといい、不安は増すばかりである。

意を決して「くさや」のブースに入る。魚をくさや液にひたし、天日干した伊豆諸島の特産品だ。説明文には激臭レベル2とある。嗅いでみる。強烈。なぜかへそのゴマのにおいがする。工業地帯の川でも嗅いだことある。ただ、ほのかに干物の香りもしている。ダメージは小さくないが、想像していたほどでもない。まだレベル2だからか。少し自信を取り戻した。

続いてレベル3はドリアン。主に東南アジアで栽培されるフルーツの王様だ。説明文には「公共施設への持ち込みが禁止される」とある。何かが腐ったようなにおいだ。ウィキペディアには「たまねぎの腐敗臭」と紹介されているが、クセがすごく、なんと表現してよいのか。でも、食べると美味しい。興味はあるが、このにおいを嗅いでしまった以上、食べる日は来ないような気がする。

レベル4からは食べ物でないものも登場する。足のおいだ。主催のにおい展実行委員会の宮島一成氏（33）は「足のおいと加齢臭は薬品で再現しています。人間のにおいのない、いわば混じりっ気なしです」と教えてくれた。そんな忠実に再現しなくても...

腹をくくり、マネキンが履いている靴下に鼻を近づけてみる。あ、これ知ってる。出張から帰った日の革靴だ。納豆っばい。ここまで再現できるのか。化学の力に驚いた。

ちなみにこのにおい、男女で反応が違うようだ。後から入っていったカップルのうち、男性は「知ってる」といくぶん余裕のリアクションだったが、女性は「ムリムリムリ！」と笑いながら悶絶（もんぜつ）していた。

レベル4、もう一つは加齢臭である。おじさんっばい服を着たマネキンが新聞を持っている。これを嗅げということか。他の来場者を見ると、においを嗅いだ後に、笑いが止まらない女性がいた。

男女によって感じ方が違うのか。いや、もしかしたら36歳になったばかりの記者が加齢臭を放っているからなのかも...。不安がよぎる。

会場内に臭気を測定できるブースもあった。特殊な機械でにおいを数値化できる。ドキドキしながら計測してみる。におい数値50。5段階で下から2番目だった。めんつゆと同じくらいのおいということは、記者にはまだ加齢臭はないということらしい。

そして、いよいよテレビの罰ゲームでよく使用されている「世界一臭い缶詰」のシュールストレミングだ。最も奥にあるこのブースはひときわ人気だった。「怖いもの見たさ」、いや、ここは「におうもの嗅ぎたさ」とでもいうべきか。

ブースに一步踏み入れた瞬間、早くも酸っぱいにおいが、そっと缶詰を嗅いでみる。鼻が曲がるのはこのことか。

でも、どこかの郷土料理を想起させる酸っぱいにおいだ。嘔吐（おうと）するほどではないのではないか。発酵した塩漬けのニシンの缶詰だから、食べるといわれたら食べられそうな気もするのだが...。ここまで激臭を嗅ぎすぎて鼻がまひしている気もする。

名古屋で2万人を動員したという同展。「東京はそれを上回る勢いです」（主催者）という。公式ツイッターも週末に「現在の待ち時間は【約120分】です」と投稿している日があり、主催者は「休日は1000人を超す来場者があるので、平日や午前中、19時以降が狙い目」と話している。

この人気について主催者は「買ってまで嗅いでみようとは思わないにおいを集めたことが若い人にウケたのでは」と分析する。

ツイッターなどの発信に注力したり、会場内の写真撮影をOKにしたことも話題の拡散に一役買っているようだが、一番は、実際に足を運ばないと体験できないというところにあるようだ。「怖いもの見たさ」と同じ、「におうもの嗅ぎたさ」で行列ができています。

主催者は「どうしても激臭ばかり注目されますが、美臭も展示しています」と話す。ちなみに展示の8割は良いにおいだった。特に、チベットなどに生息するジャコウジカの匂いは女性の良いにおいがした。激臭ばかりでなく、美臭を目当てに足を運ぶのも良いかもしれない。

最後に記者が選んだ激臭・美臭のベスト3を紹介する。

【激臭ベスト3】

3位...シュールストレミング

事前情報でハードルが上がりすぎたか。それでもツンときます。油断は禁物。

2位...足のおい

必要以上に忠実に再現されている。マネキンとはいえ人の足に鼻を近づけるという行為

の抵抗感も加味した。女性は苦手かも。

1位...くさや

激臭レベル2だが、一番つらかった。最初に挑戦したから強い印象が残ったか。ただ、お笑い芸人のような派手なリアクションにはならなかった。

【美臭ベスト3】

3位...カメムシA

実は香水に欠かせない成分を持っているカメムシ。会場ではA、B、Cの3種類が展示されており、Aが最も良いにおいがした。Cはイマイチ。

2位...アンソクコウ (安息香)

魔よけの香料として展示。甘い香りがした。いつかわが家をこの香りで充満させたい。

1位...ジャコウジカ (麝香鹿)

シカのおいが堂々の1位。若い女性の香りがした。ムスクとも呼ばれる。シンガーソングライターの小沢健二さん(49)の歌に「麝香」という曲があり、歌詞の理解も深まった点も個人的に。

「におい展」は、東京・池袋パルコで2月25日まで(2月21日は休館日)。午前10時から午後9時(最終入場は閉場30分前まで)。前売700円、当日800円(3歳未満は無料)。公式ツイッター(@nioiten)で待ち時間などを確認できる。

「リズム天国パーフェクト」全盲のドラマー少年からの手紙 任天堂の“神対応”に称賛の声

産経新聞 2018年1月25日



自宅でドラムの演奏を披露する全盲のドラマー少年、酒井響希君。ドラムで鍛えたリズム感で「リズム天国」シリーズをパーフェクトでクリアした=大阪府東大阪市

「#任天堂を許すな」。ツイッターでこんなハッシュタグ(検索目印)を付けた書き込みが注目を集めている。文字通りの批判もあるにはあるが、むしろ「任天堂、まじヒドイ!子供が頑張って発送したからって修理代0円にしやがって」と、逆説的な表現で同社への感謝の思い

をつづった内容が目立つ。ネット上で特に称賛されているのはその顧客対応だ。なかでも11歳のドラマー、酒井響希(ひびき)君と同社の交流エピソードは、ツイッターで発信されると瞬間に拡散され、有名になった。全盲の彼に、ゲームの楽しさを教えた任天堂を許すな。(小川原咲)

ゲームとの出会い

《任天堂さんへ!!

はじめまして。僕は小学5年の酒井響希です。僕は目が見えないけど僕も皆と同じようにゲームがしたいとずっと思っていました。でも僕ができるゲームはほとんどありませんでした。その中で、僕が唯一できたゲームがリズム天国です》

響希君がこんな手紙を書いたのは昨年5月のことだった。

1歳のときに目にできるがん「網膜芽細胞腫(もうまくがさいぼうしゅ)」を発症。2歳で両目を摘出した。光を失った代わりに、音の違いに楽しみを見いだした。そして3歳のときに父の健太郎さん(40)が「生涯の親友」と呼ぶドラムと出会った。

そんな響希君がのめり込んだ「リズム天国」とは、流れる音楽に合わせてタイミングよくボタンを押すゲーム。シリーズ1作目は平成18(2006)年に任天堂のゲーム機・ゲームボーイアドバンス向けのソフトとして発売された。以降、ニンテンドーDS用の「リズム天国ゴールド」、Wii用の「みんなのリズム天国」、ニンテンドー3DS用の「リズム天国ザ・ベスト+」の計4作品が発表されている。

母の康子さん(40)によると、響希君が初めて手に取ったのは小学1年のころ。長女

(12) がほしがっていたリズム天国ザ・ベストを購入したところ、響希君も興味を持ち、家族に教えてもらいながらやり始めた。すると、ドラムで鍛えた抜群のリズム感のおかげで、画面が見えないにも関わらず、家族のだれより上手にプレーした。

<https://www.youtube.com/watch?v=Fwi8XYKyW4k>

康子さんは「おもちゃは手で触れられるものに限られてきたが、リズム天国は違った」と話す。その後さかのぼって1～3作目も買い、毎日やりこんだ。そして全4作品を完璧にクリアできるまで上達した。



まさかの返信

「新作はいつ出るの？」

響希君は康子さんに繰り返し尋ねた。「お母さんには分からへ

んよ」と答えつつ、提案した。「自分で任天堂に手紙出して聞いてみたら」。響希君は点字の手紙を書いた。康子さんはそれを文字に翻訳した便箋を添えた。

《そのゲームだけは皆と一緒に楽しくできるし、このゲームは誰にも負けませんでした。ゲームボーイアドバンス版もDS版もWii版も3DS版もすべてパーフェクトをとる事ができました。なのでこれからもリズム天国を絶対に絶対に出して欲しいです。もう少し難しくても大丈夫です！！》

「気休めになればと思っていたので、返事は期待していなかった」と康子さん。ところが1週間ほどで《酒井響希様 任天堂株式会社》と書かれた返信が届いたのだ。

《この度は、任天堂あてに温かいお手紙を送っていただき、ありがとうございます。「リズム天国」「リズム天国ゴールド」「みんなのリズム天国」「リズム天国ザ・ベスト+」の全てでパーフェクトを取ることができたと、響希君がこのシリーズを楽しんでくれたことが伝わり、とても嬉しく思います。響希君から頂いたお手紙の内容は任天堂の開発部門へ報告いたします。これからも、みなさまに喜んでいただけるゲームを作っていきたいと思っておりますので、応えんよろしくおねがいたします》

響希君は「まさか返事がくるとは思わなかったのでうれしかった」と振り返る。感動した健太郎さんはこのやりとりをツイッターに投稿。「まさに神対応です。新作をお待ちします」とつぶった。

この書き込みはすぐにネット上で話題になり、「さすが任天堂」「新作を作ってくれ」「勇気をもらった」と賛辞が相次いだ。

さらにリズム天国全シリーズの楽曲を監修した音楽プロデューサー、つくもひさんも反応。健太郎さんの投稿に触れ、「泣きそうになった。てか、泣いた。ありがとう。そしてこれからもよろしくです」とツイートした。そして響希君に呼びかけた。「響希君が楽しんでくれたのはとても嬉しく思います。また新しい出会いがあると良いですね」

夢は続く

2歳で全盲となり、泣いてばかりの日々だったという響希君。飲み物を混ぜる棒で壁や柱をたたき、音の楽しさを知った。3歳のころに、近所の知人宅でドラムをたたかせてもらったことがきっかけで、4歳のころからドラム教室に通い始めた。

ドラム歴は約7年。毎日の練習は欠かさない。スティックを握りながら時折、指でドラムに触れて位置を確認しながらたたく。夢は「世界を飛び回って、人に勇気を与えられるプロドラマーになる」こと。そんな響希君と音楽の歩みに、リズム天国というゲームの存在も少なからぬ影響を与えたのだ。

《僕以外にもゲームがしたくてもできない視覚障害の子がきっといると思います。だから体にハンデがあっても皆と一緒に楽しめるゲームを是非開発して欲しいです。これからも任天堂さんを応援します。酒井響希より》

任天堂広報室によると、ゲームの感想を記した手紙やメールは世界中の子供たちから届き、そのすべてに目を通していているという。リズム天国の新作については「現段階では申し

上げることはない」とのことだが、子供に夢を与えるようなゲーム開発はこれからも続くだろう。

以下は「#任天堂を許すな」の一例。

「マリオブラザーズ...

ぶっくらぼうな職人の親父とケンカしたあとには必ず親父が『あとでマリオで協力プレーするぞ!』って言って親子仲直りするのが我が家のテンプレート...

親父は死んだが今、不器用な親父の愛情を思い出したら泣けてきた...

絶対許さん!!

任天堂よありがとう!」

社説：高齢者施策／エイジレス社会というが

神戸新聞 2018年1月27日

政府が年金制度の改革を含む高齢者施策の見直し案をまとめた。「65歳以上を一律に高齢者とみるのは現実的ではない」との見解を初めて明記した。月内に閣議決定する。

目指すのは、高齢者を年齢で画一的に決めつけない「エイジレス社会」という。社会保障制度は大きな転換を迎える。

公的年金でいえば、現在は原則として65歳から支給され、希望によって60～70歳の間で開始時期を選べる。これを70歳を超えても選ぶことができるようにし、高齢者の就労を促す。

2025年には団塊世代の全員が75歳以上になる。現行のままでは制度の維持は難しい。

少子高齢化を背景に、健康で意欲のある高齢者には社会を支えてもらう。狙いは分かるが、高齢期は身体的にも経済的にも個人差が大きい。受給時期の選択の幅を広げるにしても、支援が必要になった場合の安全網の議論が欠かせない。

今でも受給時期を遅らせると、1カ月当たり0.7%ずつ額が増える。70歳まで遅らせた場合、最大42%増額される。ただ、これを活用している人はわずかしかない現状がある。

政府は70歳以上で受給した場合も受給額を上積みする方針だ。その上で、60～64歳の就業率を、20年に67%まで引き上げる数値目標を盛り込んだ。

人手不足を背景に高齢者の就労が広がっている。一方、人件費の問題などで定年延長には消極的な企業は多い。

年金受給額が目減りしつつある中、所得保障などの対策を講じる必要がある。そうでなければ「働きたい」でなく、「働かねばならない」高齢者が増えることになりかねない。

「65歳以上」とする高齢者の定義を巡っては昨年、日本老年学会などが「75歳以上に見直すべきだ」と提言した。しかし、自立した生活ができる「健康寿命」は男性が71歳、女性が74歳とされ、平均寿命との間に10歳ほど開きがある。

25年には高齢者の5人に1人が認知症との推計もある。介護を担う高齢者は確実に増える。

エイジレス社会で、個人の実情が軽んじられてはならない。その視点を欠いては、不安や不信感が募るばかりだ。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

